

●KSP 社長退任、川崎市産業振興財団へ 九九年六月二十二日

初の常勤社長として四期八年、「KSPを軌道に乗せてほしく」との知事の特命を何とか果たし終えた。四五〇〇人の研究者、技術者を集積し、地域イノベーションセンターの地歩を固め、一一七社のベンチャー企業を起ち上げ、インキュベータを軌道に乗せた。アジア有数のサイエンスパークとなり、国の内外から数万の見学者を迎え、両陛下のご視察もいただいた。第三セクターとして初めて黒字決算して任期を終えた。その日、長洲さんから「久保君有難う」の電話が入った。挨拶に伺った高橋市長からは突然の要請。

日本初のサイエンスパーク起ち上げて われは悔いなくこの地去るなり

企業経営に縁なきわれと思いが 使命感にて走り来し日々

八年を過ごせし社屋振り返り 古希の峠を上り行くわれ

八年は長き歲月わが秘書も 三十路を過ぎて四十路に入る

退任の挨拶せるにメーヤーは 次の仕事へ勸奨しきり

(退任の挨拶をしたその場で、高橋市長から川崎市産業振興財団理事長に要請される)

社に戻り一服せるわれ訪ねきて 回答せまる助役の迫力

古希迎えなお理事長が勤まるか 窓外の雲静かになる

助役氏に受諾を告げて電話置き 今日一日のドラマを想う

引退にこころ定めしこのわれに 川崎市長の召集令状来る

テクノピア人混みに揉まれ行くわれを ○「らすいすい追い越してゆく

(十数年の車付生活で足腰弱りしせいか、愕然とする)

理事長の椅子に座りて手を握り 「よし もう一仕事」とテーブル叩く